管理者記入欄： 20058

【グローバル教育取り組み部門：応募様式】

※作品は応募様式 3 頁以内とします。応募様式以外に参考資料を添付することが可能です。（A4、様式任意）。
応募様式、参考資料あわせて 6 頁以内とします。

タイトル	世界の子どもたちに、まず 5 才までの命を
実践者／団体名	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
実施日・期間	2014 年 6 月 2 日～9 月 30 日
主な実施場所	東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、福岡県、岐阜県、岡山県
参加者及び人数	1,813 名
目標・ねらい	本取り組みは、年間 660 万人の子どもたちが 5 歳未満で命を落としている現状を改善することを伝え、行動を促すアドボカシーキャンペーン「命の木プロジェクト」（http://www.worldvision.jp/involve/inochinoki2014/：2014 年 6～7 月実施）の一環として、子どもたち（未就学児～高校生）を対象に行った。 本取り組みで目指したのは、参加した子どもたちが途上国の厳しい境遇に生きる子どもたちの生活を**体験的に学んで**地球規模課題を身近なものとし、世界とのつながりを実感すること。そして、「子どもたちの命を救いたい」という気持ちを政策変容に影響力のある世界のリーダーに届ける機会を提供することによって、**一人ひとりが世界を変える力になることができる存在だと認識できるようになること**である。
具体的な取り組み内容及び工夫・配慮した点等	・「知る」、「体験する」、「考える」、「行動」するという流れで、子どもたちが頭・心・体を使って主体的に学びを深められるよう工夫した。 ・取り組みの実践が WVJ 主催イベント、保育園、小・中・高校での出張授業など、多岐にわたったため、それぞれの機会によって異なる対象年齢、場所、可能な所要時間に柔軟に対応できるよう、すべてのコンテンツを一度に実施しなくても、部分的に組み合わせることで成果があがるように配慮した。 ・教材作成にあたっては、企業や教員ボランティアの協力も得て、取組後も教育機関や家庭等で、広く一般の方が使えるように計画した。 **①「知る」：** **世界で年間 660 万人の子どもたちが 5 歳未満で命を落としている現状を知る** ・実在する子どものストーリーをインパクト強く伝え、その存在を身近にするため、ルワンダで撮影した写真による紙芝居、“ルワンダに住むエリックくん”を制作し活用した。「大きな写真紙芝居」(A0 サイズ)、「貸出用紙芝居」(A2 サイズ)、「Web 紙芝居」の 3 種類を準備し、スタッフによる派遣授業、教育機関、家庭での活用ニーズに応えた。 ・世界の子どもの写真から自分で読み札を考える「カルタ作りセット」では、参加者が受け身に知識を得るだけではなく、写真からわかる状況に思いを馳せ、言葉を紡ぐプロセスにより、途上国の子どもが抱える課題を自ら発見し理解を深めた。また「カルタ作りセット」での学びを活かして、キャンペーン本体で実施したカルタ公募企画に参加することで、自分のアイディアが、本物のカルタになるかもしれない、という動機付けを与えた。 →教材：「大きな写真紙芝居」、「貸出用紙芝居」、「WEB 紙芝居」、「カルタ作りセット」 **②「体験する」：** **世界の子どもたちの生活を疑似体験し学びを深める** 子どもたちが日常生活を切り口に体験的に学びを深め、日本の生活が当たり前ではないこと実感することを目的に、アフリカ各国で実際に使われている道具使って、途上国の子どもたちがやっている水汲みやピーナッツつぶしなどの仕事を体験できる機会を提供した。また、アフリカの家に見立てたテントに実際に使われている生活道具を手に取れるように置き、電気・水道・ガスのない生活を想像できる場を設定した。 →教材：「水汲み体験」、「麦つぶし体験」、「アフリカの家体験」 **③「考える」：** **5 歳未満で命を落とす子どもたちを減らすために自分にできることを考える** ①②で学んだことの定着を図り、自分にできることを実践していく意識変容に導くことを目的に、ワークブックと絵本を制作し、活用した。 →教材：絵本「ルワンダに住むエリックくん」、ワークブック

管理者記入欄：

	④「行動する」: **自分の言葉で表現し、生活の中で取り組める具体的な行動につなげていく** ①～③と通して芽生えた「子どもたちの命を救いたい」という気持ちを絵や言葉で自由に表せる手形カードと準備が簡易なシートを準備し、記入してもらった。完成したカードはスタッフが高校生とともに外務省に提出。学校単位で参加した子どもたちには報告書のフィードバックをして一人ひとりのアクションが世界を変える力になることを伝えた。 →教材：手形カード/シート
教材・資料	※詳細は別添資料参照
成果	**①子どもたちの目が世界に開かれた** 日本の子どもたちに、途上国の厳しい環境で生きる子どもたちの現状を身近にしてもらうことができた。参加してくれた子どもたちの声を日本政府代表者に届けることで、一人ひとりが世界を変える力を持った存在であり、行動を起こせることを伝えられた。 **②「もっと知りたい！」** 体験的に深まった学びから、「もっと知りたい」という意欲が生まれた。「エリック君よりもまずしい子どもがいるかもしれないからそれを知りたい」「どうやったらお金持ちとびんぼうのさがなくなるか」などの感想が寄せられた（添付資料参照） **③「親にとっても良い機会になりました」** 保護者から「私自身も考えさせられた」、「今後、子どもと一緒に考え、話せるようになりたい」、「体験を少しでも継続できるように家庭でも取り組んでいきたい」などのコメントが寄せられ、家庭への広がりができた。 **④「これからどう生かしていくのか」** 子どもたちの学びがその場限りにならず、次のステップとして「自分にできること」を具体的に考えられた。 ・水を工夫して使うこと。時間を大切にする事。食べ物を、のこさずきちんと食べること。何事にも感しゃすること（小学 4 年生） ・まずしい生活をどんどん見て、そのまずしいことやいいことをいかしていけたらいいと思いました（小学 3 年生） ・ぼ金を十円い上にする（小学 5 年生） **⑤子どもたちの声を高校生が世界のリーダーへ** 「子どもたちの命を救いたい」という気持ちを込めて子どもたちが作成した手形カード、完成したカルタ（一般応募による作品も含む）を、WVJ の政策提言書とともに高校生が外務省に提出した。高校生 8 名は「助けられる子どもの命が失われていることが世間であまり知られていない。一人でも多くの国民に知ってもらいたい」と意見を伝えた。9 月 18 日には、国連日本政府代表部にも スタッフが手形カードとカルタを政策提言書とともに提出した。 子どもたちの声を世界のリーダーに届け、子どもの命が優先される世界の実現のためのアドボカシー活動としての意義とともに、高校生にとっては、将来に影響を与えるような貴重な機会の提供となった。 参加教育機関には WEB 上で報告するとともに、教育機関は対象に分けて報告書送付し、参加した子どもたちに自分の協力がどのように世界を変える力になり得るかを報告した。

管理者記入欄：

発展
（この取り組みの生かし方）

【カルタ、紙芝居は今後も広く一般の方にご利用いただけます】

①「世界の子どもカルタ」

「命の木プロジェクト」期間中、世界の子どもたちの写真を「絵札」にするカルタの「読み札」を公募し、「カルタ作りセット」を使って学んだ子どもたちも参加した。応募作品から選ばれた作品はキヤノン株式会社の協力制作され完成。WVJ の貸出教材となった。また、11 月からキヤノン株式会社のウェブサイトから誰でもダウンロードできるようになるため、教育機関や家庭でも広く利用できるようになる。

「世界の子どもカルタ」をキヤノン株式会社のウェブサイトよりダウンロード可能に（11 月以降）

②紙芝居「ルワンダに住むエリックくん」

紙芝居は貸出教材、Web 教材（http://www.worldvision.jp/news/news_1085.html)として、今後も、広く一般の方にご利用いただけます。

「貸出用紙芝居」は団体のホームページから申し込んで利用できます

【世界の子どもたちに、まず 5 才までの命を ～教材紹介とイベント報告～】

「知る」ための教材

「大きな写真紙芝居」

実在するルワンダに住むエリックくんの生活を中心に 5 歳未満で命を落とす子どもたちの現状を紹介。エリックくんの 1 日の食事はたった 1 回だけ、そして川で汲んだ水を使って生活をしている。子どもの健やかな成長に、栄養や安全な水が不可欠であることを伝えると同時に十分な食事や安全な水を使えることが当たり前ではないことに気づきを促した。
大きな写真紙芝居は、WVJ スタッフと写真家前康輔氏がルワンダで撮影した写真を使用し、キヤノン株式会社の協力により模造紙サイズで高画質出力された「大きな写真紙芝居」が実現した。紙芝居は、鮮やかにルワンダの子どもたちの現状を写し出し、イベント実施時や教育機関訪問時に子どもたちに大きなインパクトをもたらした。

「WEB 紙芝居」、「貸出用紙芝居」

WVJ ホームページから手軽に閲覧可能な「WEB 紙芝居」や授業等ですぐに使える「貸出用紙芝居」は、教育機関のみならず家庭等でも活用された。

「カルタ作りセット」

子どもたちが写真とキャプションから世界の子どもたちを取り巻く現状に思いを馳せ、読み札の文章を作成するための教材。作った読み札を発表したり、作品を使ったカルタ大会をして楽しく世界に目を向けた。絵札となる写真は栄養、保健、水・衛生、教育などをテーマに32カ国を取り上げており、読み札を考えるプロセスで参加者の「気づき」を重要視し、自分の言葉で自由に読み札の文章を作成できるように促した。

「体験する」ための教材

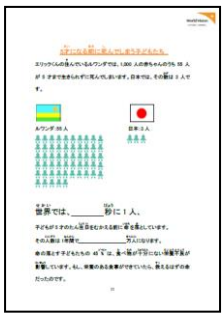
「水汲み体験」、「麦つぶし体験」、「アフリカの家体験」

紙芝居で紹介した水汲みや食事準備、電気・ガスのないアフリカの生活を疑似体験するための教材を準備した。日本のアフリカで実際に使っている水タンクや木の臼と杵などを使って疑似体験することにより、見聞きして「知る」だけでなく、実感が残る深い学びになった。

「考える」ための教材

絵本「ルワンダに住むエリックくん」とワークブック

紙芝居で学んだことを定着させるための教材として、ルワンダエリックくんの生活を紹介した絵本を作成した。日本の子どもが自分の生活と惹きつけて学べるよう自分の 1 週間の食事をふり返り、栄養バランスを確認するページやルワンダと日本の 5 歳未満児死亡率をイラストで図解し比較するページ、栄養改善のための WV の取り組みを紹介するページ、世界の飢餓状況を表す「世界はらぺこマップ」などを盛り込み、イベントや授業後にも理解と関心を高められる内容で児童・生徒に配布した。（写真　上：絵本、下：ワークブック）



「行動する」ための教材

「子どもたちの命を救いたい」という気持ち表現するための手形カード/シート

カルタ作りや紙芝居、疑似体験を通して、地球規模課題を身近にした日本の子どもたちや若者が「子どもたちの命を救いたい」という気持ちを絵・言葉・写真表せる手形カードと、準備が簡易な A4 サイズのアクションシートを準備した。「5」歳の子どものために「手」をあげるという意味のある手形カード/シートは、「命の木」の葉っぱになるという展開により、**1 人ひとりの声が集まって大きな力になることを体感できるよう意図**した。学校で授業の一環として取り組んでくださる学校や生徒会を中心に全校生徒に呼びかけてくださる学校もあり、763 件のカードが寄せられた。また、保護者も一緒に参加してくださる保育園や幼稚園など未就学児と保護者の参加も多数あった。

イベント開催

親子向けイベント「ジュディ先生の命の授業」の開催

5 月 31 日（土）、東京・青山の親子カフェにて親子向けイベント「ジュディ先生の命の授業」を開催し、16 組 31 名の親子が参加した。WVJ 親善大使を務めるジュディ・オング氏は大きな写真紙芝居を子どもたちに読み聞かせ、命と心のつながりを語りかけた。また、子どもたちはお父さんお母さんと一緒にカルタ作りに挑戦し、真剣な眼差しで写真を見つめ世界の子どもたちを取り巻く現状に向き合った。

小学生向けイベント「ワールド・ビジョン・サマースクール」

7 月 30 日(水)小学 3～6 年生を対象に体験的な学びやアクションを起こす機会としてサマースクールを開催し、34 名の子どもたちと 17 名の保護者が参加し、世界に目を向け行動するグローバルキッズになって帰る 1 日を過ごした。子どもたちは、ルワンダに住むエリックくんの生活を大きな写真紙芝居で見てから、エリックくんの生活を疑似体験した。

サマースクールに参加した子どもたちの感想：「一番心に残ったこと」

「水やたべものはきちょうとゆう事が分ったので、のこさずたべたい。

日本にすいどうがあるのは、ふつうだと思っていたけど、そうじゃなかったから、ほかの国にもふつうにあるようにしたいと思った

エリックくんのみずくみをたいけんして水が入ったタンクがもちあがらなかった事です。

世界かいの子どもたちが食べものがたべられなかったりいろいろなり由でら秒間の間に人しんでしまって5才までいきられないということ。